

小野市立下東条小学校児童向けの現場見学会を開催しました

2022年6月20日、兵庫県から発注された松沢バイパス上部工工事の現場において、近隣にあります小野市立下東条小学校の児童を対象に現場見学会を実施しました。本工事に関する説明の後、児童の皆さんにはクレヨンで自由に絵を描いてもらいました。



(1、2年生お絵描き体験)



(3、4年生お絵描き体験)



(5、6年生お絵描き体験)



神戸新聞 (2022年6月21日朝刊) に見学会の記事が掲載されました。

小野 加東 工事中の県道バイパス

道路にお絵かき

下東条小児童 動物や虹など

工事中の道路に児童が好きな動物やキャラクターなどを描く催しが20日、小野市と加東市を結ぶ予定の県道小野藍本線「松沢バイパス」であった。舗装後はアスファルトで見えなくなるが、東条川に架かる「新橋」が、子どもたちのイラストで彩られ、記念写真を撮って思い出に残した。

同線は築港内を通る部分の幅が狭いため、小野市池田町1加東市厚利の約1.5キロを松沢バイパスとして整備

中で、2024年度内の完成を目指す。地元の子どもに新しい道路への愛着を持つてもらおうと、施工する宮地エンジニアリング関西支社(大阪市)と県加東土木事務所が催しを企画した。催しには下東条小学校(小野市小田町)の児童115人が参加した。車道幅

約7メートル、長さ約108メートルの新橋がキャンパスに早変わりし、ネコやウサギ、好きなアニメキャラクター、虹など思い思いにお絵かき。4年の井上太陽君(9)は「道路に絵を描くのは初めて。広げて大きくて、気持ちいい」と笑みを浮かべた。(宮地昂志)

新橋のコンクリート路面に伸び伸びと絵を描く児童ら「松沢バイパス工事現場」